

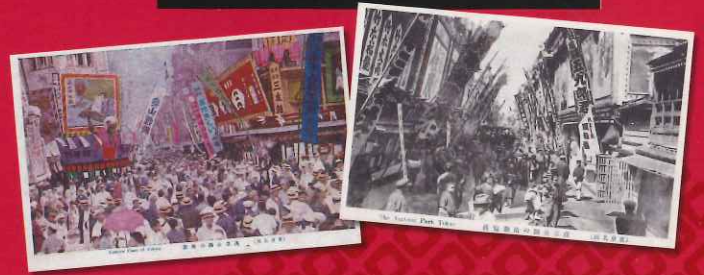
永井荷風と

浅草芸能

文豪・永井荷風と浅草六区は切っても切り離せない関係にあります。戦前はオペラ館、戦後は大都劇場、ロック座に日夜通って戯曲を提供。小説「踊子」「勲章」はオペラ館を題材にしたものです。荷風を虜にした浅草の芸能とはどんなものだったのか。代表作「澤東綺譚」の舞台となった旧・玉の井近くの東武博物館で、豊富な浅草芸能資料のコレクションを駆使しながら、荷風と浅草の関係に迫ります。



永井荷風



第1回

2021年4月18日(日) 午後2時~3時30分

明治末の宮戸座から戦前・戦中のオペラ館まで

荷風は、明治末に浅草公園裏の宮戸座の芝居に歌舞伎の本質を見出し、小説「すみだ川」で宮戸座の光景を描いています。その後、しばらく浅草芸能と距離を置いていたものの、昭和12年から六区にあったレビュー劇場のオペラ館に連日通いつめて、戯曲「葛飾情話」を提供。その楽屋通いは、空襲に備えて昭和19年3月にオペラ館が閉館するまで続きました。

第2回

2021年5月16日(日) 午後2時~3時30分

戦後、再び浅草へ… ロック座とフランス座

疎開から戻った荷風は、昭和23年から常盤座、大都劇場、ロック座などの六区の劇場に通い、踊り子や女優との交流を深めます。その頃の六区ではストリップが大流行し、ロック座に続いて昭和26年に開場したフランス座にも通いました。戦後から世を去るまで荷風が過ごした浅草での日々とは…

講師

江戸川大学教授、
大衆芸能史研究者、
演芸評論家

西条昇
(さいじょうのぼる)



1964年、東京都生まれ。幼少時より浅草六区で喜劇や演芸などの実演を観て育つ。主な著書に「ニッポンの爆笑王100」「ジャニーズお笑い進化論」など。浅草芸能史に関する二万点以上の収集資料を所有。2018年には日本近代文学館での「浅草文芸、戻る場所」展のアドバイザーと資料提供を担当。2019年には時事通信社を通じて全国の新聞にコラム「浅草文芸散歩」全20回を連載した。TV出演も多数。

【場 所】東武博物館ホール

東武スカイツリーライン 東向島駅下車
※詳しくは裏面をご覧ください。

【定 員】60名(応募多数の場合は抽選)

※政府・自治体の要請により、定員を変更する場合があります。

【参加費】無料

【応募条件】第1回・第2回の講演は2回1セットの応募
(個別の応募はできません)

【主 催】東武博物館

参加費無料

【応募方法】ハガキとインターネットによる2通りの応募が可能です。

ハガキの場合 ▶ 裏面に「講演会タイトル」を明記の上、お客様の氏名(フリガナ)、性別、年齢、郵便番号、住所、電話番号をご記入いただき、ご郵送ください。

インターネットの場合 ▶ 東武友の会のホームページ(www.tobu-tomonokai.co.jp)にアクセスの上、「向島文化サロン」のバナーをクリック。上記同様の必要事項をご入力の上、送信してください。

【宛 先】〒273-8567 千葉県船橋市本町7-1-1 東武友の会「向島文化サロン」T係

※一度に複数名のご応募はできません。
(複数名が記入されたハガキは無効となります。)
1回の応募で1名様のみ有効となります。

締 切 2021年3月17日(水) 必着 ※当選者には約1週間を目途に、当選ハガキ(入場券)を発送させていただきます。

【お問合せ】 東武友の会 TEL.047-425-7283 www.tobu-tomonokai.co.jp